

少年少女教化の実際

——「修養道場」開設の体験から——

岡 元 鍊 城

少年少女教化活動の実際の姿を、過去二度の経験を通して、教課内容、カリキュラムの問題、教材の問題、講師陣容、各種の資料を提示し、涌出する諸問題、反省や困難などをあげ大方のご教示を仰ぎたい。

特にここでは、少年少女活動の一つの動きとして二泊三日にわたる『少年少女のための夏季仏教修養道場』開設に關しての現況報告とし内容紹介を中心としたレポートをしたい。二度の体験の中から現宗研教化研究会議や布教研修所講義、全国日青結集等において経験発表をしており、私のささやかな教化活動が生かされ許容されるべき点は受け入れられて全国各地にその開設が進められ実働されていることは喜びにたえず、現宗研機関誌にその内容レポートが掲載されることによって、いっそう自他精進の道が拓かれることを重ねて喜ぶとともに何卒ご教導交流の程を願ひ上げたい。

さて、『少年少女のための夏季仏教修養道場』（以下単に修養道場又は道場と呼ぶ）は、一昨年、昨年と毎夏二泊三日の日程で二度開設。今夏第三回目の準備に当たっている状況である。以下、数節にわたって内容のいくつかの概略をあげていくことにしよう。

一、趣意書・案内書・申し込み書について

呼びかけ案内と申し込み等は七千枚のビラを印刷全町及び近接地に新聞折込みで配布。これは宗門の宣伝にもなるので大量に配布した。地元新聞に広告も出した。宣伝はこのビラの配布と二年目は一回生に郵送で知らせた。第二回の開設案内趣意は次のとおりである。

盛夏の候ご尊家ご一同さまにはご健勝の御事と謹しんでお慶び申し上げます。ついては、今夏、左の要項のごとく昨年につづいて『第二回・少年少女のための夏季仏

「教養道場」を開設いたすこととなりましたのでお子さまたちにお呼びかけの上ご賛同の榮を賜りたく心からご案内を申し上げます。昨夏、第一回の開設にあたつては能力も準備も施設もすべて心もとなひ状態でありましたが、全町のご協賛ご援助を賜わり、物より心とのみ仏のご教示に従ひ全力で対処いたしました。日頃仏教になじ

みのない子供達がみ仏のみ教えと生き方に触れて、真に死者の仏教だけではなく「生者の仏教」こそ眞の仏教という道場の趣旨にめざめてくれました。真摯な心の交流ほど美しく清いものはないと教えられると共に懸命のとり組み（精進）の尊さを互いに学びあつたのであります。裏面に道場生たちの所感の一端を掲げておきました。こうした感動・共鳴・反省等の要素こそ今日眞剣にもとめられる必要に迫られていると思ひます。今日、さまざまな知識がはらんしております。私たちは、各々の精神の自律のために、心を養う糧としてみ仏の心に近づきたいのであります。少年少女にとつておびただしい大量の情報や知識が現代子の心を養う榮養となつていたのであります。否、むしろ現代子の心を阻害し人間関係の論理を破壊する副作用の強い害毒を流してはいまいか。私たちは、あらためて現代人の生活現実にそつて仏教の心に思ひをこめて「実修体得」共同生活の中から心を養つてまいりたいと存じます。教養道場の標語で

ある「清く明るい花の輪を、私たちのまわりに広げましょう」を合言葉に自利即利他の同心の集いにご声援下さいますようお願いを申し上げます。 合掌

昭和四十六年七月十三日

美幌町西二条北一 日蓮宗 本妙寺

道場主幹 本妙寺住職 岡元鍊清

道場主任 本妙寺副住職 岡元鍊城

ご町内の皆さまへ

▽

△

少年少女のための夏季仏教教養道場開設要項

一、と き 昭和四十六年七月二十八・二十九・三十

日（二泊三日）

一、と ころ 美幌町西二条北一本妙寺（電話二四〇二

番）

一、受 付 七月二十日より二十二日までの三日間

（本妙寺にて）

一、集合時間 第一日目七月二十八日午前九時まで

（時間厳守のこと）

一、参加費 二、〇〇〇円

一、参加資格 小学五・六年生、中学一・二・三年生

一、収容人員 七十名を限度とする（定員に達し次第メ

切ります）

一、携帶品 洗面用具・寝まき・学習用具（休み帳・

宿題など）・筆記用具・トレーニングパンツ・運動靴・その他最低限必要と思われるもの。

一、服 装

男女とも清潔さを失なわない程度の軽装のこと。

一、道場日課

大乘仏教理念による精神修養、右のための訓話、問題提起、行儀作法、礼法、学習、読書、体操、人間交流、対話、座談レクリエーション(キャンプファイヤー・ゲーム・歌・映画等)

〔右のため道場主幹、主任、副主任、学校教師、茶道教授などの講師陣をととのえる〕

〔右のため、教材、テキスト、歌集等必要資料は一切主催者が負担します〕

キ……リ……ト……リ……線……

第二回少年少女のための

「夏季仏教修養道場」参加申し込み書

住所・氏名・男女別・学年・年令・父母の氏名・

職業・年令・電話か連絡先

◎裏面にカットを入れて感想文の一部を八人分入れた以上が第二回道場の案内書全文である。ちなみに現在準備中の第三回の案内趣意書は次の通りである。

盛夏の候、ご尊家ご一同さまにはご清勝の御事と謹しんでお慶び申し上げます。さて、ご町内の皆さまへ、今夏もまた夏休みを迎えて来る七月二十八日から二泊三日間、第三回目の『少年少女のための夏季仏教修養道場』開設のご案内を嬉しくお呼びかけ申し上げます。修養道場は、〃清く明るい光の輪を、私たちのまわりに広げましょう〃を合言葉として、規律ある集団生活の中から、他との協調を体得しつつ、個々の人格を磨きあげ、自利即利他の生活を通して明るく清らかに輝く美しい人間像を学びあう少年少女の集いです。たった一個のちっぽけな光明も、互いに手を取り肩を組みあつて輪を広げていけば、きっと清らかな世界が実現するものと信じます。将来を担う有為の少年少女たちをして、その成長へのささやかな礎の一コマとなつていただければ、修養道場開設の願いがいくぶんなりとも役立つものと嬉しく思うものであります。木草の葉末に宿る小さなひとしずくの水滴も、やがてはせせらぎとなり、大河となり、ついには洋々たる大海にとけこんでいきます。道場は、ほんの小さな仲間づくりではありませんが、共に力をつくしてゆくならば、僕もあなたもだれしもが願う清らかで明るい幸せな世界が到来することでしょう。願いは大きく、仕事は小さいけれどもそんな心構えで、第三回目の修養道場を左の要項で開設いたします。昨年、一昨年と二度の体

験を生かし、実りあるものにつくりあげてまいりたいと思います。道場修了生の「来年もかならず開いて下さい」との熱望、ご両親さまの激励、多くの町内有縁の方々のご支援を背にいつそうの精進を重ねて開設いたしたく存じます。どうぞ趣旨ご賛同の上、お子さまたちを道場に送りこんで下さいませよう心からお呼びかけをいたし、ご案内を申し上げます。

以上が今年予定の第三回開設案内である。七千五百枚の印刷をした。

一、修養道場カリキュラム及び教課内容について

まず一・二回のカリキュラムを示して対照作業を進めながら教課内容について説明する。手さぐり状態でとりくんだ作業が二回目には若干の整備を向えたその推移過程をもちこんでいこう。

次頁のカリキュラム中、童心行・学習行・美化行・安息行という呼称は実践的意味あいをもたせたものである。童心行は学校も学年も広範な集まりであるため融和と仲間意識をもたせ、かつお寺という子供たちにとっては異質なじみのない場であるためにとった雰囲気づくりの時間である。学習行は学校の宿題や、休み帳の自習を主とした時間（ただしこれは後述するが時間数は第一回は九十分、二回

目は百分でウエイトはおいていない）。美化行は清掃、安息行は休憩と自由な運動とお遊びの時間である。

第一日目から順をおって教課内容、一回、二回の推移、問題点を拾いながら進めていく。

先づ道場生集合、受付、申し込み名簿と点検、開道式、ついで「日程説明・村の編成・当番・各種指示」と「童心行」となる。初年度はなじみのないうちに各種の指示等をして混乱を招いたので組みかえて「童心行」を先にもってきた。荷物の整理も初年度は混乱したため二年度は「日程説明等」の中に含めた。「仏前作法その1」は合掌・礼拝の仕方、お数珠の使い方（お数珠は開場式で渡す）食事作法、食法（道場教科書八蓮の実✓掲載の他に別刷を用意）などすぐさま必要な所作の指導実修の時間である。昼食・休憩（安息行）ののち、午後は「仏歌指導その1」。仏歌は「四弘誓願」「わが仏」の二曲だけで二歌とも朝夕ののりの前後に歌う。第一日目の「夕べのおいのり」から本格的に歌わなくてはいけないので初年度の四十分間では練習不足であったため二年度は八その1✓で一時間として集中訓練、更に「仏歌その2」を組んで総ざらいマスターさせて仕上げた。「礼法」は初年度一日目・二日目にわたって八その3✓まで七十分であったが次年度はこれを改め一日目だけにして九十分にした。道場の規律に即した礼法（美化行の指導も含む）であるため二日間にわたるこま切れを

第一回修養道場カリキュラム（昭和45年7月28～30日）

第 一 日 目		第 二 日 目		第 三 日 目	
9.00	道場生集合・受付・名簿と点検	6.00	起 床	6.00	起 床
10.30~11.11	開 場 式	6.30~7.00	朝 の お い の り	6.30~7.00	朝 の お い の り
10.30~11.10	日程説明・村編・各種指示	7.00~7.40	体操・マラソン・美化	7.00~7.40	体操・マラソン・美化行
11.10~11.40	童 心 行	7.40~8.45	朝 食・安 息 行	7.40~8.45	朝 食・安 息 行
11.40~12.00	仏前作法(その1)食事作法	8.45~9.45	訓 話 (その2)	8.45~9.45	訓 話(その3)
12.00~13.00	昼食・安息行・体操	9.45~10.00	安 息 行<おやつ3>	9.45~10.00	安 息 行<おやつ5>
13.00~14.00	訓 話 (その1)	10.00~11.15	仏前作法(その2)礼法(その3)	11.00~11.00	訓 話(その4)
14.00~14.15	安 息 行	11.15~12.00	学 習 行(その2)	11.00~12.00	静座(唱題行・その1)
14.15~15.15	礼法(その1)、仏歌指導	12.00~13.00	昼食・安息行・体操	12.00~13.00	昼食・安息行・体操
15.15~15.30	安 息 行<おやつ1>	13.00~14.00	新聞の読み方・壁新聞の作り方	13.00~13.30	静座(唱題行・その2)
15.30~16.15	学 習 行(その1)	14.00~14.15	安 息 行<おやつ4>	13.30~15.00	しめくくりの集い・感想文・アンケート<おやつ6>
16.15~16.30	安 息 行	14.15~15.00	読書<くもの糸・よだかの星>	15.00~15.30	安 息 行
16.30~17.30	静座(唱題行)の所作	15.00~15.45	読書について話あう会・感想文	15.30~16.10	修 了 式
17.30~18.00	お い の り の 実 修	15.45~16.30	交歓の集い(レクリエーション)		解 散
18.00~18.30	夕 べ の お い の り	16.30~17.30	村 別 討 議		
18.30~19.30	夕 食・安 息 行	17.30~18.00 18.00~18.30	入浴(せんとうへ行く) 夕 べ の お い の り		
19.30~20.00	礼 法(その2)	18.30~19.15 19.15~21.15	灯の集い(キャンプファイヤー) 夕 食・安 息 行		
20.00~21.30	映画の集い・仲間と話あう会 (おやつ2)	21.15~22.00	交歓の集い(二日目の反省会)		
22.00	就 寝	22.00	就 寝		

第二回修養道場カリキュラム（昭和46年7月28～30日）

第 一 日 目		第 二 日 目		第 三 日 目	
9.00~9.40	道場生集合・受付・点検	6.00	起 床	6.00	起 床
10.00~10.30	開 場 式・記 念 写 真	6.30~7.20	マラソン・体操・美化行	6.30~7.20	マラソン・体操・美化行
10.30~10.50	童 心 行	7.20~7.40	朝 の お い の り	7.20~7.40	朝 の お い の り
10.50~11.30	日程説明・村編成・荷物整理等	7.40~8.45	朝 食・安 息 行	7.40~8.25	朝 食・安 息 行
11.30~12.00	仏前作法(その1)食事作法	8.45~9.45	訓 話(その1)	8.25~9.45	訓 話(その3)
12.00~13.00	昼食・安息行・体操	9.45~10.00	安 息 行<おやつ3>	9.45~10.00	安 息 行<おやつ5>
13.00~14.00	仏歌(その1)四弘誓願・わが仏	10.00~11.00	訓 話(その2)	10.00~11.00	訓 話(その4)
14.00~14.15	安 息 行	11.00~12.00	学 習 行(その2)	11.00~11.10	安 息 行
14.15~15.15	仏歌(その2)、礼法(その1)	12.00~12.45	昼食・安息行・体操	11.10~11.40	訓 話(その5)
15.15~15.30	安 息 行<おやつ1>	12.45~13.45	新聞の読み方・壁新聞の作り方	11.40~12.10	静座(唱題行・その1)
15.30~16.15	学 習 行(その1)	13.45~14.00	安 息 行<おやつ4>	12.10~13.00	昼食・安息行・体操
16.15~16.30	安 息 行	14.00~14.45	読 書<くもの糸・法華譬話>	13.00~13.30	静 座(唱題行・そ2)
16.30~17.30	おいのりの実修	14.45~15.30	読書について話あう会・感想文	13.30~15.30	しめくりの集い<おやつ6>
17.30~18.00	交 歓 の 集 い	15.30~16.15	交歓の集い(レクリエーション)	15.30~16.10	アンケート・感想文
18.00~18.30	夕べのおいのり	16.15~17.30	村 別 討 議	16.10~16.30	修 了 式
18.30~19.30	夕 食・安 息 行	17.30~18.00	入浴(せんとうへ行く)		解 散
19.30~20.30	礼 法(その2)	18.00~18.20	夕べのおいのり		
20.30~21.30	映画の集い仲間と話あう会<おやつ2>	18.20~19.00 19.00~21.20	夕 食・安 息 行 灯の集い(キャンプファイヤー)		
21.30	就 叙	21.20~22.00 22.00	交 歓 の 集 い 就 叙		

り」と「美化行・体操」はトレパンのはきかえなどで混雑をきたしたので組みかえた。マラソンはIK強のグラウンドまで走ってラジオ体操など、もどって道場内外の美化行。

次に「訓話」であるが、道場のねらいは訓話にあるので教課の重点はここにおいてある。講義内容は、道場教科書

『蓮の実』ののとり、「目標」「修養とは」「宗教とは」「仏教とは」「信仰とは」「妙法蓮華經の教えるもの」「日蓮聖人の「一生と主張」「彼岸の意味」「菩薩道の実践」と進め輪読しながらの講話である。初年度は一日目に「訓話その1」を入れたが実際には一日目ということで道場全体の態勢づくりの作業に追われることが多いため、二年目には第二日の朝に改変した。道場の主軸であるため最も力をこめるところであるが、どうしても時間不足が感ぜられ、その結果初年度の「訓話その4」までの二四〇分を次年度は「その5」までとし時間も二九〇分に延長した。二泊三日の日程ではこれが限度のようであって、かけ足の感否めない。「学習行」や「映画の集い」をなくするとういうような改変をしなくては時間の調節はつがず、そうすると硬質の面が表にでてきて、苦痛感を与えてしまう。こうした配分において問題がありそうである。次の「仏前作法」「礼法」は初年度は二日目にも組んでいたが二年度からは一日目だけにしぼった。「壁新聞」については、十人単位の村(班)ごとの創意や自主性をもたせるた

め、かつは自由な気分の時間の意味も含めて一、二回ともこれを入れた。これには各村の目標や村歌、村のニュースを書きこませるべく指示、村歌は夜の「灯の集い」に発表させた。

「読書」は初年度「くもの糸」と「よだかの星」二作の自主選択。次年度は再入場生が七十人のうち十六人いたために二回生には法華經五百弟子受記品の「衣裏宝珠譬」(着物の裏に縫いつけられた宝石)と「寿量品良医譬」(名医とその子)の任意選択とし一回生には「くもの糸」とした。読後はそれぞれ感想文を書かせた。次の「交歓の集い」はレクリエーションでゲーム、歌などの交流、歌は夜の「灯の集い」にそなえてキャンプファイヤー向の歌などである。次の「村別会議」は「灯の集い」における村ごとの出しものの自主的討議や壁新聞の作成時間。次の「入浴」は集団で行列を組んでせんととうへ、途中の道すがら左右に別れて道路のゴミ捨いをする。町民への宣伝や道場認識にも役立つ。入浴時間はごく短かく寺―風呂屋―寺が三十分で実質入浴時間は十分。アンケートでは入浴時間の不足が訴えられたが、これは考えとしてはテキパキとした積極的行動力の養成がねらいの一つであり、かつ短時間の性急さが道場生たちにとって愉快さもあるとの判断であった。アンケートで「道場で何が一番楽しかったか」の質問に入浴も入っていた。この点は更考すべきことと思う。

「灯の集い」はファイヤーを囲んでの交歓の場で各村別
の出しものが発表され、おもいきりはなやいだ時間をすご
す。初年度は二時間、アンケート結果により次年度は二十
分延長した。「灯の集い」で全員がとけこみ、連帯感は深
まって三日目を迎える。三日目になると道場の動きに慣れ
てスムーズな運びとなり、すでに「おいのり」は完全に型
にはまっている。

最終日の三日目は充実した雰囲気の中で「訓話」を午前
中に集中し、「静坐その上」があつて午後のしめくくりの
静坐にそなえる。静坐は警策を用い、腰に坐椅子を使用す
る。順序は、

1、礼拝 2、法界定印・調息・半眼の淨心行 3、淨
心行の後半にミニ法話 4、合掌・唱題七唱 5、礼拝。
所用三十分、厳確に行じる。「訓話」と「静坐」が道場
の主体であつて一番悲鳴をあげるところであるが一番想い
にのこるものでもある。その意味からも「静坐」は厳粛に
つとめる必要がある。

「しめくくりの集い」は、各村の壁新聞の発表があつて
最後の交流の場とする。アンケート・感想文を書かせて修
了式、解散となる。以上が三日間の道場日課、カリキュラ
ムとその内容である。

一、講演について

道場のスタッフは道場主幹、道場主任・副主任、礼法、
音楽教授、学校教師、映写技師、道場庶務、調理師、主治
医、体操教授、ユースホステル・ペアレントなどである。
他に後述するが道場司監がいる。

それぞれの役割については、道場主幹は一人で住職が当
り開・閉場式、「灯の集い」が出席で食事は共にする。道
場主任は一名で運営訓育の主体であつて「朝夕のおいの
り」「訓話」「静坐」の首導となり万般に当る。副主任は
主任を補佐しつつ異体同心となつて全運営指導に参画し役
割は重い。以下、礼法教授は女性で初年度一人、次年度は
二人としたが、一人でよさそうである。音楽教授は女性で
一人。学校教師二人、主治医は町内の開業医院長で第一夜
・第二夜と夜来場し問診する。調理師、映写技師は各一
人。体操教授は初年度二人、次年度一人、経過からいって
一人で十分のようである。初年度は体育大生、次年度は高
校一年生で第一回修了生を活用した。「童心行」「灯のつ
どい」等の歌やゲーム、キャンプファイヤーの指導にはユ
ースホステルのペアレントが当り、調理の担当をお寺の婦
人会が奉仕した。調理には次年度に第一回修了生の子高
生を活用した。その他、庶務的仕事を寺族や信徒青年の助
力を得、二年度には前年度修了生に手伝ってもらえるよう

になった。以上、講師陣容は、主治医や調理師の設置など一応万善を期し、運営主体となる主幹、主任・副主任は子供たちとなじみのうすいお坊さんであるため礼法、音楽の指導者には女性講師とし、ペアレントを入れるなどきついところはきつく、やさしさも失わず、楽しみを加えて教科

のバランスを調整し陣容を整えた。

一、アンケート・感想文など

第一回と第二回のアンケートの集計を表示すると次表の
 とうりである(数字はトータル)。

第1回修養道場アンケート (71名)

1. 道場生活はどうでしたか
 イ、楽しかった (64) ロ、楽しくなかった (0)
 ハ、わからない (7)
2. 三日間という日数はどうでしたか
 イ、短い (34) ロ、丁度よかった (32) ハ、
 長かった (5)
3. 何が一番楽しかったか
 灯の集い (51), 静坐 (8), レク (6), そ
 の他に、全部楽しい, 訓話, 新聞づくり, 映画,
 体操など
4. 先生はどうでしたか
 イ、やさしかった (46) ロ、こわかった (0)
 ハ、その他, ハ、その他では、おもしろい (12)
 始めとして八通りの意見あり
5. 村別の分け方は
 イ、良かった (48) ロ、自分達で決めたかった
 (16) ハ、その他 (3), ハ、その他は人から
 二通りの意見あり, 無解答 (4)
6. 人数はどうでしたか
 イ、多すぎた (16), ロ、丁度よかった (54)
 ハ、少なすぎた (0)
7. また道場に来たいか
 イ、来たい (50) ロ、きたくない (2), ハ、
 わからない (18)
8. もっとしてほしかったこと
 学習 (7), 安息行の時間多く (14), 運動時
 間多く (4), 訓話多く (12), 訓話少く (2)
 などである。
9. 感想・希望
 (この点は後でふれる)

右表についてそれぞれ分析していただきたいが、表にも
 れた感想・希望にあげられたことを列記しておく。要求と
 しては安息行をふやしては初年度 (14) 次年度 (26)、入

浴時間をふやしてが二年度に多く (22)、学習行の延長が
 (7) と (5)、プールへ行きたいが (3) と (14)、静
 坐を長くが (3) と (6)、短かくが (0) と (3)、訓

第2回修養道場アンケート (69名)

1. 道場生活はどうでしたか
イ、楽しかった (60) ロ、楽しくなかった (4)
ハ、わからない (4)
2. 三日間の日数はどうでしたか
イ、短い (31) ロ、丁度よい (27) ハ、長い (9)
3. 何が一番楽しかったか
灯の集い (57), 安息行 (16), ねること (9)
食事 (7), 静坐 (5), おやつ (4), 新聞
づくり・入浴 (各2), 先生との対話, 集団で
の仕事, 学習
4. 先生はどうでしたか (両方にまたがってもよい)
イ、やさしかった (55) ロ、こわかった (37)
5. 村別のわけ方
イ、良かった (29) ロ、自分達で決めたかった (30)
6. 村活動は楽しくできましたか
イ、とても楽しかった (5) ロ、楽しかった (43) ハ、つまらなかった (19)
7. 人数はどうでした
イ、丁度よい (55) ロ、多い (8) ハ、少ない (0)
8. また道場にきたいか
イ、来たい (40) ロ、来たくない (2) ハ、わからない (24)
9. 訓話はどうでした
イ、ためになった (51) ロ、わからない (12)
ハ、その他 (3)
10. 11. 感想・希望などは後述する

話長くが(2)と(2)、その他、フォークダンスをした
い、もつときびしく、スポーツの時間多く、遊び道具ふや
して、先生と一緒に遊びたい、礼法をもつと等があり洗面
所がたりないとか足洗い場の設置等の施設に対するものも
あった。

一方、感想については、宗教に興味をもち始めた、宗教
の話がよかった、規律ある生徒でよかった、団体生活がよ
かった、厳しさと楽しさがあってよかった、静坐がきびし

くよかった、女子と仲良くなつてよかった等おおむね道場
の趣旨に即した解答となつていているようだ。積極的に来年は
お手伝いに来たいとの意志表示もあった。紙数の制約で感
想文の一部だけをのせておこう。

三日間、親から離れていちどうゆうことをしてみたい
と思つたときに、少年少女のための夏季仏教修養道場がで
きたのではいってみるととてもたのしかったのでよかった
△小五女子▽。この三日間は休み中の一番の思い出です。

三日間早くおわってしまったようです。三日間のみじかい間だった思い出を思い出して勉強やその他をしたいと思います。よく的になったと思う。いいわすれたがとくに先生がおもしろく時にはきびしかった。けじめがあるのでまねたいと思います。△小六女子▽。私はここに来てよかったと思います。とても苦しいものもありましたが友達もたくさんで、仏教というものもよくわかったからです。それに努力にんたい力が今まで以上につよく身についたのでほんとうにきてよかったと思います。先生方もちょっぴりきびしかったけれど、やさしく親切だったので楽しかったです。できたらもう一度きてみたいと思います。そしてバッチリきたえていただこうと思います。先生方ありがとうございます。△小六女子▽。この道場に来てよかったと思う。……最後に、親から三日間もはなれて生活できたことうれしく思います。ほんとうに楽しかったです。△小六女子▽。私はこのお寺に来てよかったと思いました。村でしらない人ばかりだと友だちがたくさんできるのでいいのだけれどしっている人が一人しかいなかった。でも三日目になると、みんなと話ができるようになってたくさん友だちができました。私はまたこのお寺に來たいと思います。△小五女子▽。この三日間ほんとうに楽しかったです。きた時は、友だちができず、少しさみしかったけれど、すぐ友だちができて

たのしかったです。このお寺へきて、いろいろなことをまなびました。おさほうでは、あたまた本をのせてあるいたり、先生からいろいろな話をきいたり、歌もならいました。この三日間とてもみじかかったと思いました。らいねんまたきたいと思います。せいざをした時は、はじめの日足がいたくていたくてたいへんでした。早く終らないかと思っていました。夜のともしびのつどいはとても楽しかったです。みんなでろうそくをもつてうたったり、かく村ごとにいろいろなことを見せあったりして楽しかったです。△小六女子▽。ぼくは、このお寺にきていろいろなことを学びました。それは、岡元先生のくん話やかべ新聞の作りかたなどほかにもたくさんのかたちを学びました。ほかにもしびのつどいなどたのしいこともたくさんありました。ざせんはあせがだらだら出ました。でも三日間さいこう楽しくすごしました。△小六男子▽。

以上小学生の所感で次に中学生は、

先生方はユーモアがあり楽しくできた。時間に従って行動したから気持がよかった。仏教のはなしが少しすくなかった。仲間を大切にし私も明るくのびのびとしたい。静坐をやったからこれを応用し、にんたい力を持ち続けたい。日数をもっと多くしてほしい。△中二女子▽。三日間がアツと言う間に過ぎてしまいました。訓話をこれからの生活に生かしたいと思う。先生方もみんなやさしく、また親切に

いろいろなことを教えてくさいました。この三日間のいろいろな教えなどを毎日の生活・学習に生かしていけるようなほんとうに有意義な三日間だった。道場のことは決して忘れないと思います。八中三女子。普段、気のつかない自分の欠点を知ることが出来たり、また、それを改めることのできる所だと思ふ。みんなの中でたのしむことができその中に、人間としての心がまえを、自然と身につけることが出来る。少ない期間だったけれども楽しくすごせました。八中三女子。私はこの道場に自主的に参加しようとは思まなかったが、最終的な感想はやはり、参加してよかったということである。よかったことはまず仏教に関心を深めさせてくれたことである。自分の生きていく道しるべとなるものが、この仏教であるということがよく感じられた。それには仏教とは直接的には関係のないランニング・ゲーム等スケジュールは少しきつかったけれど夏休みの学習には最もてきしていたと思う。このあとまだこういう道場があったならためらうことなく進んで参加するだろう。ここで習った仏教のお教えをじゅうぶん生かし生活していきこんど障害にぶつかり苦しんでもこのお教えを守りこれからの人生を生きぬいていきたい。八中三男子。大変忍耐力がやしなわれた。仏教訓話のために。来年も、もう一度してほしい。八中三男子。

以上、一・二回生百四十人のうち十三人だけだが、感想

文を転記した。感想文は期間中、修了式直前のものであつて、修了後、間をおいてからの所感とはちがったものが出てくるであろうが、一応、道場評果において好ましい所感が多いようであつた。

一、道場開設の諸問題・その他の資料

道場教科書として何をどう使うかは苦心のいるところである。宗内はもとよりであるが、内外あわせてともに適切な資料が乏しいようである。私は、道場教科書として『蓮の実』を出版した。管見では既刊のものでまとまつた形ではないということと同時に少年少女教化の実際に即した修養道場向の内容のまとまつたものの必要がありあえて一書を刊行した。

『蓮の実』は、前述の如く「訓話」のテキストであり単元ごとにまとめた。前篇に「思想・信行篇」、後篇「余洙談論」としてよみものをせた。「日蓮聖人のおことば」「日蓮聖人素描・マンガと馬」「海外布教の始祖・日持上人」「なべかぶり日親上人」「高山樗牛の日蓮聖人讃仰」「宮沢賢治の信仰」の六篇である。「思想・信行篇」では道場標語、道場目標、道場日課のほか、主体である訓話用の修養とは、宗教とは、仏教とは、信仰とは、妙法蓮華經の教えるもの、日蓮聖人のご一生とご主張、彼岸の意味、菩薩道の実践、その他「正しい信仰の榮り」として正しい

信仰の心得・唱題行の行じ方、おつとめの仕方、朝夕おつとめ用の勤行聖典、食法、お仏前の作法と用具、通常作法・礼法などであり、巻末に「ご両親さまへ」として両親への呼びかけ説論をしてある。一八六頁、写真十二葉入りカバーつきの冊子である。この一冊で網羅されるように編集したものである。『蓮の実』以外の教材では、仏歌集や読書教材をコピー、食法は色刷のもの。更に各村ごとの日誌、アンケート、感想文用紙、両親宛に親として道場への希望や道場へ子供たちを送り込んだ理由などを記入させる。ここに記された意見は一般的、通俗的なものが多いが、世論として聞くべきものがあるがここでは割愛した。

道場生の分析をいくつか記してみると、初年度においては七十一名中、男子二十七名、女子四十四名。小五(8)小六(4)、中一(3)、中二(6)、中三(6)。女子は小五(13)、小六(17)、中一(5)、中二(3)、中三(6)、次年度は六十九名(一名病氣退出)で男女別は三十六人対三十五人で男子は小五から中三まで11・13・4・1・2で女子は12・10・3・3・7であった。次年度への一回生の参加は十六人であった。町外からの参加もあり二回目ときには二十一名あった。檀家優先はせず、むしろ檀家をめざめさせ、刺戟させる意味からも三割に満たない現況は、三年目を迎えて刺戟効果が現われてきたようだ。

終りに若干の問題点を述べておくと、先づ先にもふれたように教科書としての教材難がある。人材難もある。経費も相当額の負担がある。宗務院では、青少年教化の窓口設置が是非必要であって、ここには豊富な教化資料、教材、人材を用意すること。資料を収集整理して流してもらうことが必要である。何としても孤軍奮闘の作業であつては、永続性においても難点がある。伝道部の教箋も青少年向のものは絶無である。読書の教材においても、仏教的作品は少なく回を重ねるごとに何を選ぶべきか苦慮する。適切な指導書が希求される。又、日程の三日はきつく三泊四日が見られるようだ。

講師陣のところで述べなかつたが、道場開設の財的支援の裏方として「道場司監」がいる。初年度二名、次年度四名で檀家外の人で趣意を説得し強力な支援を得ている。これら司監が町内有力者に呼びかけ財的援助や食料などの支援を得ている。

道場修了後の作業としては、今日までのところ、手紙の往復、修了二ヶ月後に全員に案内して道場の八ミリ映画会お正月には「修養道場新年のつどい」があり、お寺の行事への参加(公開講演会「正法広布の集い」における仏歌の合唱など)や道場のお手伝い、隔月に「道場通信」のガリ版発行がある。中学生を対象に『蓮の実』に宮沢賢治の素描をのせたので「宮沢賢治の作品を読む会」の発足をねらっ

たがこれは失敗した。今後の問題として道場修了生とのつながり、両親とのつながり（檀家は三割）の問題がある。

これは、開設中三日間だけのものではなく、修了後は、布教実践の問題・未信徒への呼びかけの問題とかかわって対処しなくてはならないと模索している。アンケートにあらわれた好印象、感想文に示された決意などをどのように活かしていくべきであらうか。

以上、克明にすぎたきらいがあるが、あえて道場の歩みを点綴した。修養道場開設二度のささやかな体験を表示して大方のご注意、意見を賜り、かつはご参考の一助となれば幸甚である。

△ S 47 ・ 7 ・ 16 ▽

編 集

後 記

■『現代宗教研究』（所報第五号）は、今年度二回に分け、第五、第六号を発行する予定である。第五回中央教研は、布教カリキュラムの作成と公害問題の二テーマを中心に討議されるので、本号はこのための資料として検討される素材を中心に編集された。第三回、第四回教研会議の報告、並びに布教カリキュラム試案の二特集を行なったのもこの意味からである。

■第三回、第四回教研会議は、膨大なテープの量にわたり、汗に原稿用紙をぬらしながら、テープの再生を行なった。一字一句正確に再生することを期したが、録音の不備や紙数の関係で省略したり、割愛せざるをえなかった内容がかなりあったことをお許し願いたい。上原専禄先生のご講演も都合により残念ながら掲載することができなくなってしまった。このご講演は、雑誌『未来』に全文掲載されているので、一読をすすめることとしてご寛恕いただきたい。テープ再生にあたり、現宗研研究員の久住謙是、宮川一敬、外岡信昭、望月哲也各師が積極的に労苦を惜しまず努力されたことに謝意を表したい。

■布教カリキュラム試案の特集として、この面の權威である三田村竜全師の玉稿を頂戴した。また道場の開催を通じた経験報告を岡元鍊城師にお願ひした。幼児、少年少女に対する教化方法と内容が指摘されており、日蓮宗の児童教化の推進に寄与する論文と考える。

■巻頭言に述べておいた通りの編集姿勢で本誌を充実させるよう努力していきたい。なお、末尾になり恐縮ながら、『現代宗教研究』の題字を渡部公允宗務総長より頂戴したことを深く感謝したい。本誌が、多くの現場の教師、研究者によって一読、活用されることを切望すると同時に本誌へのご支援、ご協力をお願いしたい。

（石川 康明 記）